

「第39回長野県日中友好武術太極拳フェスティバル」 700人あまりが参集し、各団体が地域性や趣向を凝らした演武で交流を深める

9月27日（日）、長野市ビッグハットにおいて、全県から加盟団体が集う「第39回長野県日中友好武術太極拳フェスティバル」が開催されました。

今年は700人あまりが参集、団体ごと地域性や趣向を凝らした演武と交流で、一年来の再会を楽しみました。

2028年に開催される「信州やまなみ国スポ」の武術太極拳競技のアトラクションに向けて、県歌「信濃の国」に合わせたの115人による集団演武を行いました。この企画は今年の春先から始め、参加者募集と同時に双扇によるオリジナル套路を作成し、北信、東信、南信の3つのエリアで2回の練習を行い、全員そろってのはじめての演武となりました。

また、「第43回全日本武術太極拳選手権大会」に長

野県代表で出場し頂点に挑んだ選手たちの演武がありました。

そして群馬県武術太極拳連盟から堀米昭義先生をご招待して、フェスティバル参加者が自由に参加できるスタイルの交流型ミニ講習会を開催し、先生の演武も楽しみました。

続いて栃木県武術太極拳連盟から日本武術太極拳連盟の東日本シニア指定強化の高山蓮選手の迫力ある演武が行われました。

北関東ブロックとのご縁をいただき、貴重で特別感のあるフェスティバルとなりました。

支えてくださった実行委員会、長野市太極拳協会のスタッフの皆さまありがとうございました。

（長野県武術太極拳連盟事務局）



それぞれの団体が地域性や趣向を凝らした演武を披露



他団体の演武を楽しみ、一年来の再開を楽しむ一日